

2022年度（令和4年度）
事業報告書

社会福祉法人 豊友会

2022年度(令和4年度)事業報告

概要

2022年度は、東京都での新園2園（おおつかほうゆう保育園・もんなかほうゆう保育園）同時開園となり、開園後の各種対応や取り組みを行うと共に、拠点の機能強化の一環として、東京事務所の強化に取り組んだ。

神戸エリアにおいては、北須磨学童保育コーナーの受託に向けた準備を行った。施設増加に伴い、職員採用等を強化し、拠点として、施設連携強化への取り組みを行ってきた。

豊岡エリアにおいては、チャイルドハウスこども園隣地のカフェ活用を職員主導で検討し、地域への貢献等も視野に、今後の展開を期したい。

法人本部、各エリア、各施設の役割・機能・業務の見直しを踏まえて、2023年度には、組織改革を本格的に行い、2024年度にはなお一層の充実を期するための基盤整備を行うこととした。

多地域多機能多施設の実践に伴い、職員数及び関係者数（園児、児童、家庭、地域等）が多くなる中で、法人としての役割と施設としての役割について、混合している部分があり、課題となっている。

また、少子高齢、グローバル、SDG'sなど時代環境の変化に即応した事業展開も急務となっており、調査、視察、検討を本格化させた年度でもあり、次年度に向けてより具体化していくこととしたい。

保育教育については、日常保育・教育、行事等のあり方についても検討を加え、工夫を凝らしながら、PDCAサイクルの徹底を行い、改善に努めた。

研修については、コロナ対応の緩和に伴い、昨年度に引き続き、オンライン研修に加え、対面式の研修も増加傾向にある、さいたま保育園では、専門講師を招いて保育実践を通じての保育教育研修を導入し、質のなお一層の向上に努めている。

職員処遇に関して、処遇改善に向けた臨時交付金が継続実施される一方で、地域や設置施設種毎で差異が顕在化しつつある。法人として、職員処遇改善に向けた対応をしていく体制を整備していくことが重要となっている。

採用状況については、令和4年度中途として29名、令和5年度4月採用として27名の保育士・看護師・栄養士・児童指導員・事務職を採用した。採用の一方で、離職率についても、地域差が出てきており、改善に努めていくこととしたい。

キャリアパスについて、最終検討を行い、神戸エリアでは令和5年度に試行し、他エリアにおいても、令和6年4月より実施できるよう、環境整備に努めていくこととしたい。職員の目標設定ややりがい等を充実させることにより、離職率の改善にもつなげていくこととしたい。

新型コロナの2類から5類への移行を踏まえて、どのように対応していくのか・・・コロナ前の生活にただ単に戻すのではなく、コロナ禍を経験した新たな生活様式への対応も急務となっている。

安心安全を大切に、さまざまに取り組んできたが、なお一層の環境整備を図

ることとしたい。

1 業務報告

コロナ禍における生活様式に慣れていく一方で、保育教育の在り方が問われた一年でもあった。

安心安全を第一に各種の取り組みを行ってきたが、環境の変化に対応した取り組みができていくか否か、検証を加えながら、改善、前向きに取り組むこととしたい。

2022年度は、コンプライアンス、ハラスメント事案についても各種の対応を行ってきているところであるが、職員研修・周知を含めて、体制の抜本的な見直しを行うことが肝要となっている。

各エリアでの特記事項について、下記する。

豊岡エリアでは、チャイルドハウスこども園の定員超過について、課題となっており、行政を含めた対応を行っていたが、具体的な方向性が見いだせない状況である。近隣公立幼稚園の民営化時期について、要望申し出を行っていくこととしたい。

神戸エリアでは、各施設とも順調な業務経営を行う一方で、施設数の増加に伴う管理運営体制についても、検討を加えて、今後の展開を期したい。

首都圏エリアでは、東京都新園への取り組みと共に、業務の見直しを行い、従来の東京事務所機能を強化し、本格的な取り組みを行った。

本部においては、役割について、見直しを行っているが、十分機能しているとはいえず、今後の大きな課題となっている。また、業務効率化を踏まえた業務改善、ネットワークシステムの増強に努めているところである。いずれにしても職員研修を強化し、業務への活用に努めていくこととしたい。

本部と施設の機能分担を整理しつつ、本部、エリア、施設の役割・機能等業務の抜本的な取り組みを行う予定である。

1-1 社会福祉事業

保育園・こども園事業については、概ね順調に推移しているものの、園によっては、収支バランスが悪化しているところもあり、今後改善を行なっていくこととしたい。

豊岡エリアでは、チャイルドハウスこども園が定員145名に対して、平均203名の在籍があり、140%の定員超過となっており、2021年4月のこども園移行やバンビーノハウス保育園を開園し、改善に取り組んでいるが、改善に結びつかず、豊岡市等行政との協議も必要となってきた。病児病後児保育事業については、前年度と同様にコロナ対策を重視し、284名と前年度より利用数が減少した。一時保育事業も大幅に減少している。また、子育て支援事業については、「わくわくの森」などの利用者はいるものの、活用については、なお一層検討が必要である。

神戸エリアでは、村雨こども園なぎさ分園の開園により、園児数は平均142名であった。松風児童館においては、分館も含めて、学童クラブ利用者数が

当初133名であったが、年度末には、90名となっている。年間利用者数については、21,265名で前年から232名減少しており、おやこふらっとひろば須磨の利用者は、12,647名を数え、全体としては、計で3,000名程度の増加となっている。

首都圏エリアでは、諏訪ひかり保育園の園児数が平均89名で、1名減少となり、病児病後児保育室についても、前年対比81%増の29名の利用となっている。おおつかほうゆう保育園、もんなかほうゆう保育園は開園初年度でもあり、定員を充足していないが、職員の保育教育については、充実してきている。職員研修に加え、経営改善にも取り組んでいくこととしたい。

1-2 公益事業

放課後児童クラブキッズガーデンにおいては、児童数も安定し、平均79名となっているが、補助金がないことから、行政への働きかけなど、今後一層の取り組みが必要となってきた。

さいたま保育園については、定員充足率の関係から定員を87名に変更し、平均74名となっている。

つくしんぼ保育所においては、職員業務の見直しなど課題解決に向けた取り組みを継続して行っている。

1-3 収益事業

園庭用に買収した敷地内にある3階建てマンション及び駐車場の賃貸業を開始しているが、現在満室状況であり、順調に推移している。また、隣地カフェについても、駐車場機能と共に、有効活用に向けた取り組みを行っていききたい。

1-4 第三者評価

2018年度に諏訪ひかり保育園で受審して以来、各施設で実施できていない状況を鑑み、早急に対応して、順次受審して、改善に努めていきたい。

1-5 研修活動

コロナ禍の緩和に伴い、オンライン研修に加えて、対面・集合研修も増えてきている。効果的な研修体制を考えつつ、フィードバックなど実践的な活用を考えていくこととしたい。

保育教育の専門性を高める研修を行う一方で、産業医によるメンタルヘルスや豊岡地区では、公認心理師によるカウンセリングや研修についても随時導入している。

弁護士によるコンプライアンス研修を継続して行い、情報提供を行うなどの取り組みを行った。

個別計画の遂行については、出来る限り積極的な取り組みを行っているが、受講定員が少なく、選漏れもあることから、早めの対応を心掛けたい。

職員への社会人マナー、美容や健康に関する研修を企画したが、対面が難しく、中止もしくは延期となっており、2023年度から改めて積極的に取り組

みたい。

法人内では、ネットワーク研修を主に、個人情報保護などを重視した研修を行い、2023年度より一層継続した研修を行っていくこととした。

1-6 キャリアパス

積年の課題であった、キャリアパスについて、職員のやりがいや将来設計の見えるかは急務であり、2024年4月に本格実施に向けた取り組みを行っている。神戸エリアでは、2023年度に試行し、豊岡・首都圏エリアではコンサルティングを含めた対応を行い、導入・活用に向けた取り組みを行うこととしたい。

1-7 法人運営

法人経営については、理事会を6回、評議員会を3回開催し、毎月法人事務局会議を開催し、情報共有、意思決定の迅速化を図る一方で、施設長会議等の会議開催が出来ず、今後改善に努めていきたい。

東京事務所においても、企画会議を定例化し、情報共有に努めた。

法人役職員数が、305人となり、ガバナンスやコンプライアンスの強化はもとより、コミュニケーションの一層の充実が重要となってきた。

また、本部・エリア・施設の機能をなお一層明確にして、それに伴い人事体制、研修を進めて、経営の強化を行っていくこととしたい。

2 経営報告と今後の課題

法人全体の収入は、16億2,721万円（前年度13億9,776万円）予算対比で、4,364万円の増収となる一方で、支出は16億216万円（前年度13億8,200万円）予算対比で、2,641万円の支出増加により、事業活動資金収支差額はプラス2,505万円（前年度1,575万円）予算対比で、1,723万円の増加となった。

施設整備資金等を加味した当期資金収支差額は5,798万円で、予算対比で2,078万円の増加となった。

決算分析としては、施設数の増加に伴う委託費及び補助金が増加する一方で、職員数が増加し、人件費が増加、土地・建物賃借料等が増加している。

東京都新園については、開園当初3歳児以上が少ないため、定員充足しておらずマイナスとなっているが、既存園同様業務改善を行いながら、円滑な経営に努めていくこととしたい。

3 社会福祉事業

3-1 チャイルドハウスこども園

(1) 保育・運営

年間を通して、200名を上回る園児数の受け入れの中、「こども達の主体性」を引き続き大切にし、教育・保育の充実を図った。特に5歳児に関しては、こども達が遊びの中から学んでいる様子や過程をドキュメンテーションにしながら、こども達とも振り返り、より一層の遊びの展開に繋げた。0～4歳児は、こども達が瞬時に示す興味関心をいち早く拾い上げ、それに応じた環境作りに努めた。

コロナウイルス対応緩和に伴い、行事のあり方に工夫を凝らした。その結果、幼児は、保育参観・運動会・オープン参観・発表会等、数回にわたり保護者に参加してもらうことが出来て、保護者からも高評価の感想が聞かれた。乳児は、バンビーノハウス保育園と合同で保育参加や親子交流会を実施し、保護者同士の繋がりを広げる事が出来た。又、日々に於いても、「キッズリー」アプリを活用し、様々なこども達の育ちを視覚的に配信することが続けられている。

今年度も保護者支援が必要な家庭（育児能力不足・保護者疾患・貧困など）の問題案件が数件あり、専門機関との連携を密にとった。又、専門機関への報告義務を適切に努めた。

引き続き、ホームページの内容・ブログの更新、インスタグラムでの情報発信に力を入れた。数名の園見学や7名の実習生の受け入れを行い、2023年度の入職に繋がった。

隣接するバンビーノハウス保育園との連携が定着してきた。「職員会議」「主幹会議」を中心に、各歳児毎の会議を随時実施し、2園併せての職員間の情報共有・共通理解が密に行えている。

2022年度 チャイルドハウス保育園園児人数

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
4月	2	5	17	54	59	64	201
5月	2	5	17	55	60	64	203
6月	2	5	17	55	60	64	203
7月	2	5	17	55	60	64	203
8月	2	5	17	55	60	64	203
9月	2	5	17	55	61	64	204
10月	2	5	16	55	61	64	203
11月	2	5	16	54	61	64	202
12月	3	5	16	54	61	64	203
1月	3	5	16	54	61	64	203
2月	3	5	16	54	61	64	203

3月	3	5	15	54	60	64	201
平均(人)	2	5	16	55	60	64	203

(2) 子育て支援事業

子育て支援センター「チャイルドハウス」として、毎週火～金・9:30～13:00で、部屋解放に取り組んでいるが、ほぼ利用が無い状況である。しかし、今年度は10月に「地域コミュニティー」を実施し、在宅家庭が3組が参加。ハロウィンにちなんで、ゲームや制作活動を楽しんだ。

毎土曜日の園庭解放は、屋外ということもあり、実施することが出来た。

2022年度 実績報告

	来室数(組)		来室数(組)
4月		10月	5
5月		11月	1
6月		12月	
7月		1月	1
8月	1	2月	
9月		3月	
合計	1	合計	7

(2) 病児病後児センター「チャイルドケアセンター」

前年度に引き続き、市役所や医療機関と連携し、「新型コロナウイルス感染症」の流行地域や校区を把握したり、予約受付時の聞き取りを徹底しながら、利用人数の大幅な制限は解除し、医師の診断に沿って複数名（定員数を考慮しながら）の同時受け入れを行った。また、秋以降は、新型コロナウイルス感染症が確認されてから初めて「インフルエンザ」の流行もあったが、職員間で受け入れ態勢の見直しを行ないながらの受け入れを行う。利用状況や受け入れた疾患で、使用した保育室や玩具の清掃・消毒の仕方を調整しながら、チャイルド・ケアセンター内での感染予防の徹底を図る事が出来た。

2022年度 チャイルドケアセンター利用人数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
人数	14	16	18	12	42	33
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	21	19	26	15	45	23
合計	284名					

(4) 一時預かり事業

年間利用者がのべ73名であった。利用者は、0～2歳児が大半を占め、私的理由による利用が多い。在園児数が多く、受け入れ人数を制限する日もあった。今後も在宅支援、地域貢献の一つとして行っていきたい。

2022年度 チャイルドハウス保育園一時保育実績

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
4月							0
5月				9			9
6月				16			16
7月			1	12			13
8月				4			4
9月		1					1
10月			2				2
11月	1	4	5				10
12月		2	3				5
1月		1	4				5
2月			6				6
3月			2				2
合計(人)	1	8	23	41	0	0	73

(5) 職員研修

「年間園内研修計画」を立て、感染症対応・心肺蘇生法・消火器の取り扱い等の実践に加えて、ヒヤリハット・事故発生の事案を振り返る「事例研修」や園バスでの事故を踏まえ「重大事故について」の研修を実施し、事故防止に努めた。その他、「人権擁護について」「保育を語ろう」と題して研修を行い、質の向上に繋げた。「キャリアアップ研修」については、今年度も引き続き、各自積極的に参加することが出来た。又、職員の福利厚生観点から、色彩的心理学に注目。外部講師による「カラーセミナー」を実施し、とても興味深い知識を得ることが出来た。

3-2 テラスハウス保育園

(1) 保育・運営

ウィズコロナ3年目。園内・玩具等の消毒・衛生管理の徹底、毎日の健康観察等、細心の注意を払いながら保育を行う毎日であった。コロナだからできないのではなく、日々子どもたちの育ちに対して、何が一番良いのかを常に考えながら、毎日の保育はもちろんのこと、行事についても、その都度検討し判断していった。春は保護者の方に来園して頂き、子どもの育ちの共有を行っ

た。秋は保護者親睦を加味した親子遠足を実施した。冬は、子どもたちの1年間の成長の集大成を見て頂くために来園を予定していたが、コロナ感染者増加の為、動画を作成し配信に切り替えた。

気になる園児が複数人おり、公認心理師のアドバイスを頂き、専門機関へつないだり、家族との連携を取りながら支援を行っていった。

地域の保護者・子育て支援の取り組みとしての一時的保育事業では、200名、公開保育では7名の利用があった。地域密着を目指す園として、保育の様子をホームページ・ブログ等で、地域への情報配信を引き続き行っていきたい。

2022年度 テラスハウス保育園園児人数

	0歳児	1歳児	2歳児	合計
4月	4	15	20	39
5月	4	15	20	39
6月	7	15	20	42
7月	7	16	20	43
8月	8	16	20	44
9月	13	16	19	48
10月	13	17	18	48
11月	15	17	18	50
12月	15	18	18	51
1月	17	18	19	54
2月	17	18	19	54
3月	18	18	19	55
平均(人)	11.5	16.5	19	47

2022年度 テラスハウス保育園一時保育実績

	0歳児	1歳児	2歳児	合計
4月	0	7	5	12
5月	0	5	6	11
6月	0	6	8	14
7月	3	5	8	16
8月	2	2	5	9
9月	0	7	9	16
10月	0	5	16	21
11月	0	8	24	32

12月	0	7	18	25
1月	5	0	13	18
2月	0	12	0	12
3月	4	1	9	14
合計 (人)	14	65	121	200

(2) 職員研修

様々な方法で研修に取り組んだ。(園内研修・園外研修・オンライン研修)
 研修担当中心に何が今必要な研修なのか、タイムリー性を重視して実施していった。園内研修では、昨年度「ドキュメンテーション・写真の活用」についてのオンライン研修を利用して勉強会を行った。今年度はそれを実践に移していく為の勉強会を行った。そうすることにより、保育についての対話も増えた。対話の中からの悩みを見える化する為、「お悩みボード」を作成し、その事項を題材とし研修を行っていった。また、保育実技実践強化の為、延長保育時間を利用してのピアノ研修、会議前の時間を利用しての実技研修も継続した。キャリアアップ研修も、各自積極的に受講していった。

3-3 スマイリーハウス保育園

(1) 保育・運営

今年度も引き続き、「一人ひとりを大切に一人ひとりに寄り添う保育の実践」を目標に保育を行った。子ども自らが興味関心をもった事象に、満足いくまで関わっていける「時間」や「場所」等の確保を心掛けた。

新型コロナウイルス感染症対策については、徐々に緩和されつつある中でも、消毒をはじめとした日々の実践的な衛生管理や健康管理の徹底なども継続して行ったことにより、園から更なる感染が広まるといった事態を招くことはなかった。また行事の面では、3年ぶりに来園していただくという形で、春には保育参加・参観を、秋には親子交流会を開催することができた。多くの保護者の参加があり、好意的な意見も多く聞かれた。それに加えて近隣の畑でいもほり体験をさせてもらったり、お礼に焼き芋パーティーに招待しふれ合いの時間を設ける等、地域とのつながりの中に保育を行うことが出来た。しかし1年の保育の集大成とする保育参加・参観は、時期的にコロナウイルスの感染拡大も伴い、動画配信にて行った。

家庭支援を要する保護者も複数あったが、関係機関との連携を密に図り、こまめに情報共有を行っていくことで、園児・保護者が心身共に安定して過ごしていけるよう個別支援を行っていった。

2022年度 スマイリーハウス保育園園児人数

	0歳児	1歳児	2歳児	合計
4月	4	5	7	16
5月	4	5	7	16
6月	4	6	7	17
7月	4	6	7	17
8月	4	6	7	17
9月	6	6	7	19
10月	6	6	7	19
11月	6	6	7	19
12月	6	6	7	19
1月	6	6	7	19
2月	6	6	7	19
3月	6	6	7	19
平均(人)	5	6	7	18

(2) 一時預かり事業

年間利用延べ人数は51名であった。新型コロナウイルスについても徐々に緩和されつつあったが、少なからずその影響もあり前半はほぼ利用がなく、利用者数は増えなかった。前年度同様、利用者の多くはリピーターであり、周知が図られている状態であるとは言えないが、今年度子育て支援室（わくわくの森）利用者との接点を持つ中に、多数当園の一時預かりを利用してもらうことが出来た。引き続き周知していく必要があると感じている。

2022年度 スマイリーハウス保育園一時保育実績

	0歳児	1歳児	2歳児	合計
4月	0	0	0	0
5月	0	0	0	0
6月	0	0	0	0
7月	0	0	0	0
8月	0	0	0	0
9月	0	2	0	2
10月	0	4	9	13
11月	0	1	10	11
12月	1	0	10	11

1月	1	1	0	2
2月	2	0	0	2
3月	7	3	0	10
合計	11	11	29	51

(3) 職員研修

今年度は外部で開催される対面の研修にも、意欲的に参加した。オンライン研修とうまく組み合わせることで、オンライン研修によるメリットも活かしながら、対面での学びも多くあり、結果園全体の保育の質の向上へとつなげることができた。

3-4 スプリングハウス保育園

(1) 保育・運営

今年度も新型コロナとの共存であったが徐々に緩和されつつある中でも、衛生面の消毒や換気の徹底、園児・職員の健康状態には細心の注意を払った。行事では、動画配信をして運動遊びや給食の様子閲覧や秋には3年ぶりに親子交流会を計画し「親子の触れ合い」や「保護者同士の交流」を目的に植村直己冒険館に出かけることが出来た。3月には1年の締めくくりとして保育園での子どもたちの成長の様子を見ていただけるよう保育参加参観を実施することが出来たのは大きな変化である。一人ひとり丁寧に関わることを目標として日々の保育に取り組んでいるが、今年度は特に0歳児5名の月年齢の差が大きく、各年齢ともにより個々の成長に合わせてかかわるよう配慮した。また、季節の行事を大切に、普段の遊びから行事を楽しめるように計画し実施に努めた。

地域との連携・交流に関しては、昨年度に引き続き業者の方などお世話になっている方にプレゼントをしたり、ハロウィンには近所のお家を回っての交流を行った。また、今年度初めて近隣の介護サービスセンター「銀ちゃんの家」に子どもたちがプレゼントを作って持って行き交流をスタートしたり、3月3日のひな祭り会に地域の方を招待してクイズやゲーム・ダンスをして楽しむことが出来た。来年度より、本格的に地域交流を実施し広げていきたい。

2022年度 スプリングハウス保育園園児人数

	0歳児	1歳児	2歳児	合計
4月	2	3	8	13
5月	3	4	8	15
6月	3	5	8	16
7月	3	5	5	13
8月	3	5	5	13
9月	4	5	6	15

10月	4	5	6	15
11月	5	5	6	16
12月	5	5	6	16
1月	5	5	6	16
2月	5	5	6	16
3月	5	4	6	15
平均（人）	3.9	4.7	6.3	14.9

（2）一時預かり事業

今年度もコロナのため一時保育事業の積極的な周知を行うことができなかったが、一時的退所児や入所前園児の利用があった。来年度は、新型コロナウイルス感染症の見直しが行われるので積極的に多方面への周知を行っていきたい。

2022年度 スプリングハウス保育園一時保育実績

	0歳児	1歳児	2歳児	合計
4月	0	0	0	0
5月	0	0	0	0
6月	0	0	0	0
7月	0	0	4	4
8月	1	0	12	13
9月	1	0	0	1
10月	0	0	0	0
11月	0	0	0	0
12月	0	0	0	0
1月	0	0	0	0
2月	0	0	0	0
3月	1	4	0	5
合計（人）	3	4	16	23

（3）職員研修

今年度は、新卒者2名を受け入れたこともあり、できるだけ細やかに研修を行っていった。2022年より新人研修（年間）を行い、運動遊びや歌実技、新採用研修の振り返り等を実施、またマニュアルに従っての研修や手遊びなどの実技の園内研修や警察の方に参加してもらい自園における不審者研修を実施した。外部研修もオンラインばかりだけではなく、対面の実技研修やキャリアアップ研修にも参加することができた。オンラインでの研修でできる限り多く

の職員が閲覧できるようにし、個々のスキルアップや保育の見直しにつながるように取り組んだ。また、今年度も毎日15分の保育の振り返りタイムを設け、分かりやすく説明をしたり職員間同士の共通理解に努め、明日の保育への取り組みるようにした。

3-5 バンビーノハウス保育園

(1) 保育・運営

開園2年目を迎え、11名でスタート。今年度も引き続き、法人・保育理念をもとに、全体的な計画・一人ひとりの育ちに応じた個別保育計画を立案し、安心・安全のもと、個々に寄り添った保育の実践に努め、一人ひとりの子どもの姿をよく見とり、発達に応じた遊びを展開できるよう、環境作りに取り組んだ。8月には、難聴児（軽度）の入所を迎え、障害児保育の対応を始めた。3月には16名に増え、隣接するチャイルドハウスこども園と交流・連携の密に、異年齢児保育を進めていく事が出来、2歳児への進級もスムーズであった。

保護者対応では、春は来園していただき保育参観を実施する。こども達の育ちを共有しながら、家庭との連携を図った。秋はチャイルドハウスこども園と合同で、歳児毎の親子交流会を実施し、保護者同士の繋がりを広げられた。年度の終盤には、一年間の成長を動画にまとめ、保護者配信を行った。今後は感染状況の変化に伴い、保護者との連携・交流をさらに深めていく。

2022年度 バンビーノハウス保育園園児人数

	0歳児	1歳児	合計
4月	3	8	11
5月	3	8	11
6月	3	8	11
7月	3	8	11
8月	6	9	15
9月	6	9	15
10月	6	9	15
11月	6	8	14
12月	6	8	14
1月	6	8	14
2月	7	8	15
3月	8	8	16
平均(人)	5	8	14

(2) 職員研修

チャイルドハウスこども園と合同で、「園内研修年間計画」を作成した。感染症対応、救急蘇生法、不審者対応等に加え、「保育について語り合い、相手の意見を知る」をねらいとしたワークショップ研修を取り入れた。職員同士の交流が図れた上に、保育について意見交換をする良い時間となった。又、オンラインを活用し、「不適切保育について」の研修を行い、自らの保育を振り返った。

3-6 (幼保連携型認定こども園) 村雨こども園・村雨こども園愛分園

村雨こども園なぎさ分園

(1) 施設運営

長期化している新型コロナウイルス渦中3年目に入り、4月・5月の新年度早々に感染者数が増加した。けれど、子どもたちの感染対応を行いながら教育保育を行い、社会活動、経済活動を止めることなく、行政・地域・関係機関と一体となって培ってきたノウハウやマニュアルを糧に、強固に新型コロナウイルスに立ち向かうことができた。

6月からは行事は、開催日数を増やし、学年やクラス分けで蜜を避け換気を十分に行い全ての園内行事を令和4年度は実施し、子ども達の教育保育内容の充実を図った。教育保育内容の取り組みをコロナ禍前の量的質的確保に努め、子ども達の育ちを再確認しながら今まで満たされていなかった内容を充足しながら運営を行った。

また、保護者の相談業務も増えた。コロナ禍が長期化し取り巻く社会情勢が変わっていく中での仕事と家庭の両立、感染への脅威と戸惑い、子どもに向かう姿勢等々の相談業務に継続して対応する必要性が増した。

コロナ禍で今までより友達や職場の同僚等とのコミュニケーションが不足する中、話を聞いて傾聴し受容することで落ち着きと安心感を持ってもらうことができた。送迎の際の保護者の見守りもアンテナをはって強化していきたい。

保育所実習・教育実習は、養成校からの依頼に応じ、今までと変わらず実習生を保育現場受け入れ、お互いに健康観察に留意しながら実習指導を行った。

今年度の保育実習生受け入れ実績人数は12名となった。

また、「トライやるウィーク」は2校の中学生16名を「育児ふれあい体験」は中学3年生40名を受け入れ、中学生との地域活動を実施した。クラスの年齢に応じ、おむつ替えやおんぶの仕方、絵本読みやドッチボール等関わり、子ども達にとっても楽しいひと時を過ごすことができた。

高齢者との地域交流活動は未だ儘ならない状況だが、小中高大学生と地域の親子との地域活動は感染対策を施しながら実施でき、コロナ禍中からの大きく前進した養成校連携と地域活動の取り組みとなった。

須磨区役所2階で神戸市からの委託事業で行っている「地域子育て支援拠点事業・おやこふらっとひろば須磨」が、令和5年3月31日で3年の契約満了となるため、再度、運営委託事業の公募に応募した。申請書類作成とプレゼンテーションに臨み令和5年4月からも再度、当神戸エリアが選考され本園が須磨区の地域子育て支援拠点事業の一環を担うことになった。村雨ほほえみ保育

園、松風児童館の職員とも連携体制を取りながら地域の子育て家庭の支援に貢献し、妊婦から包括的に子育てを支えていけるような、地域活動運営を関係機関と一緒に努めていきたいと思ひます。

試行錯誤して作り上げたキャリアパス制度が、緊急事態宣言や蔓延防止措置等の発令で、実施が先延ばしになっていたが、1月に東京より小泉事務所の小泉社会労務士にお越し頂きキャリアパス導入に係る研修を実施し、令和5年4月1日より本格実施を現場に周知し、キャリアシートとコミュニケーションシートを配布し各職員の目標設定等のシート提出を終えた段階に入っている。今後は、人事評価者の視点や面談等の打合せや研修を積み上げながら、各職員のキャリアアップに繋がるように現場ファーストの姿勢で評価者は試行錯誤していきたい。

この3、4年産前産後・育児休暇取得者が増え100%の育休復帰率となっている。休暇取得中の職員確保も大変だが現在においては、職員も充足し確保できている。今後も子育てとの両立ができる「働きがいのある」「働きやすい」環境づくりを職員と共に作ってきたい。

また、発達気になる子どもの増加が著しい。その裏には虐待を潜めているケースも多くなっている。障害の内容もかなり重いケースが多く集団ではかなり順応しにくい子どもの様子が伺え、常時の個別の対応・支援配慮が必要となっている。障害児一人一人の関わりの重要性が増す中、専門的な知識や事例体験をこなしている専門職員の採用や全職員の障害児研修の重要性を痛感している。

2022年度 村雨こども園（定員135名）人数

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計(人)
4月	9	14	27	32(7)	30(2)	29(7)	141
5月	9	14	29(2)	32(7)	30(2)	29(7)	143
6月	9	14	29(2)	32(7)	30(2)	29(7)	143
7月	9	14	29(2)	32(7)	30(2)	29(7)	143
8月	9	14	29(2)	32(7)	30(2)	29(7)	143
9月	9	14	29(2)	32(7)	30(2)	29(7)	143
10月	9	14	29(2)	32(7)	30(2)	29(7)	143
11月	9	14	30(3)	32(5)	30(2)	28(6)	143
12月	9	14	28(2)	32(5)	31(3)	28(6)	142
1月	9	14	28(2)	32(5)	31(3)	28(6)	142
2月	9	14	28(2)	32(5)	31(3)	28(6)	142
3月	8	14	28(2)	32(5)	31(3)	28(6)	141
平均	9	14	29	32	30	29	142

1号認定(内数)

2022年度 村雨こども園愛分園（定員12名）人数

	0歳児	1歳児	合計 (人)
4月	3	6	9
5月	4	6	10
6月	4	6	10
7月	4	6	10
8月	6	6	12
9月	6	6	12
10月	6	6	12
11月	6	6	12
12月	6	6	12
1月	6	6	12
2月	6	6	12
3月	6	6	12
平均	5	6	11

2022年度 村雨こども園なぎさ分園（定員30名）人数

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計(人)
4月	0	4	4	8	8	5	29
5月	0	4	4	8	8	5	29
6月	1	4	4	8	8	5	30
7月	2	4	4	8	8	5	31
8月	3	4	4	8	8	5	32
9月	3	4	4	8	8	5	32
10月	3	4	4	8	8	5	32
11月	3	4	4	8	8	5	32
12月	3	4	4	8	7	5	31
1月	3	4	4	8	7	5	31
2月	3	4	4	8	7	5	31
3月	3	4	4	8	6	5	30
平均	2	4	4	8	8	5	31

(2) 教育保育内容について

神戸のこども園エリアは、コロナ禍でも子ども達の生活、遊びからの学びを止めないように、以前と変わらず子どもが主体的に活動できる環境を与えられるように、本園、愛分園、なぎさ分園と同敷地内の3つの建物を三蜜に注視しながら効果的に使用し、子ども達の生活・遊びのスペースを確保しゆったりと遊ぶことができた。

感染を出来るだけ予防できることが、職員の教育保育に取り組むモチベーシ

ョンを維持することにも繋がった。

また、毎月の保育検討会では、子ども達の体幹や体力逓減が一番の課題となった。「非常事態宣言」「蔓延防止措置」の発令で、家庭でも室内で過ごす時間も以前に比べ長くなり、近隣の公園に外出することにもためらいがあるご家庭も多々あった。

そこで今年度は、特に「心と体を動かす」ことに力を注ぐ教育保育を行うことにした。社会の動向から屋外でのマスクの緩和や小さい子どものマスクを推奨しないことが浸透し、園外に出かけやすくなり園外保育の拡大を進めた。公園や海岸への園外保育、バスを利用して遠足に、4、5歳児の恒例の山登りも登山口近くまで電車で行き、おにぎり弁当を持って、旗振山に子ども達全員に登りきり達成感を満たしてやることができた。

また、食育活動や園庭菜園で収穫した野菜のクッキングも再開した。ごっこ遊び等の異年齢保育は徐々に感染状況を見ながら行った。このような教育保育内容の実施にあたっては保護者の皆さんは受け入れて理解して頂き、行ってもらえることにとっても感謝され、さらに職員が感染しないか心配し気遣っても頂き労いの言葉も頂いた。

新型コロナウイルス感染症が長期化し心身ともに疲弊はしたが、子ども・保護者・職員の絆は深まった。今まで以上に、本園の運営を理解して共有することが強いものとなり、比例して子どもの育ちに繋がった。

運動会、秋まつり、音楽会、生活発表会等の大きな行事開催も実施し保護者の皆さんへ、本園の教育保育内容と子どもの成長を見て感じて頂くことが出来た。

小中高等学校との交流、地域の親子の支援事業等の地域活動を実施することができた。高齢者との地域交流は時期尚早となっている。

新型コロナウイルス感染症渦中の4年間多方面にわたり、子ども中心に考え日常の教育保育について、行事について等々、今までと違った形での角度から検討を進めてきた過程を大切に、徐々にコロナ禍中の学びも取り入れ、新しい日常の教育保育の在り方、行事の在り方、SNSの活用の仕方等々を子どもを取り巻く社会が変化したことも考慮し新しい取り組みを作り上げていきたい。

(3) 子育て支援事業

毎週月曜日に実施している、村雨こども園の園庭開放「むらさめひろば」は、屋外ということもあり年間通して実施した。園庭遊びを楽しみ、親子の体を動かしリフレッシュの場となった。

親子保育体験でのプール遊び、製作遊び、離乳食講座等を6組の親子人数制限予約制で再開した。また、こども園の行事参加事業（七夕会・クリスマス会・ひなまつり会）も人数制限の予約制で実施し、久しぶりにこども園の子ども達と一緒に参加できる行事となった。

2022年度 むらさめひろば・なかよしひろば参加実績数

4月	59	10月	95
5月	80	11月	137
6月	146	12月	80
7月	57	1月	46
8月	12 プール開放のみ 実施予約制	2月	85
9月	66	3月	34
合 計(人)			897

(4) 一時保育事業

「非定型保育型」(就労で保育が必要)利用者同様に「リフレッシュ保育型」(私的利用)利用者数が年度後半になる程増加した。

コロナ禍の長期化で子育て不安や子育て疲れ、または精神疾患などを抱える利用者が増加した。相談業務、見守り、関係機関との連携のケースも増え対応に追われた。

しばらくコロナ禍の社会情勢の反動による、一時保育利用者の支援配慮も必要になってきているので継続して努めていきたい。

2022年度 村雨こども園 一時保育利用実績人数

	非定型保育	緊急保育	リフレッシュ保育	合計(人)
4月	26	1	15	42
5月	24	2	15	41
6月	17	13	10	40
7月	33	5	10	48
8月	19	5	11	35
9月	40	3	15	58
10月	49	3	9	61
11月	57	10	17	84
12月	60	14	23	97
1月	42	22	19	83
2月	60	11	23	94
3月	86	20	23	129
合計	513	109	190	812

(5) 研修

- ・新型コロナウイルス感染予防や防止のために、須磨区保健センターの保健師の訪問巡回を受けながら感染対策の共有を行った。また、感染症の知識やスキルを深めるため、衛生環境・衛生管理の研修に積極的に取り組んだ。

- ・キャリアアップ研修は、ハイブリッド方式により進んで受講した。
- ・園内研修においては、関係機関との連携を受けながら発達支援が必要な園児に対しての職員間の発達理解と保護者支援に取り組んだ。
区役所での定期的な乳幼児健診での保健師との共有はスムーズに行え、保護者への対応も足並みを揃えることができた。
発達支援においては事例検討を積み上げて一人一人の特性理解を深め保育を考えていきたい。
- ・令和5年度よりキャリアパスを導入するため、キャリアアップ制度の意義等も含め研修を実施し職員と共通理解を図った。今後も試行錯誤しながらキャリアパスの中味を吟味していきたい。

3-7 村雨ほほえみ保育園（小規模保育事業）

(1) 運営について

今年度の前半は引き続き新型コロナウイルス感染症への対応を余儀なくされた。日々の衛生管理や健康管理など感染防止対策に努めていたが、7月から8月にかけては、園児、職員に陽性者が複数発生し、濃厚接触者にあたる園児は登園自粛となる為、多数の園児が自宅待機となった期間があった。小規模保育園であるが故、クラスで保育室が分かれておらず、異年齢児が共に過ごす時間も多いため、自宅待機となってしまいう園児が多くなってしまった状況だった。10月以降は濃厚接触者の特定もなくなり、対応が緩和されたことにより、保健師による巡回指導の助言も参考にした感染対策は継続しながら、新型コロナウイルス感染症の影響が減少した運営ができるようになっていった。

行事についても、日程を分けたり、参加人数を制限したりの対策を取りながらではあったが、保護者に参加していただき、保育や園での子どもの様子を知ってもらう機会を前年度より多く設けることができた。

保護者と情報を共有する連絡票のICTシステム導入の準備に取り組み、うねぶさくらの連絡帳システムの運用を7月より開始できた。保護者がスマートフォンなどで入力、閲覧することができる利便性に加え、ペーパーレスにも繋がった。

保護者の在宅勤務縮小や短時間勤務から通常勤務への切り替えなどで、長時間保育となる0歳児が多くなり、保育士配置基準を満たす為、職員の超過勤務での対応が必要になった時期もあったが、勤務シフトを工夫し職員への負担を少なくしながら、一人一人の子どもに寄り添う保育はしっかり継続し、子どもも保護者も安心できる園としての運営に努めた。

(2) 保育内容について

今年度も子ども達が主体的に活動したり、自分の居場所でくつろいで過ごすことができる環境の工夫を職員間で話し合い、保育に取り組んだ。

0歳児は運動機能の発達を促す遊具の常設、クッションマットの増設を行い、安全面も重視しながら、体を動かして遊ぶことを発達に応じて楽しめるようにした。また、死角を作らないよう工夫しながらお気に入りの遊び場所ができる

環境作りも行った。1、2歳児はパーテーションを増設し、それぞれの育ちに合った遊びに取り組み、集中、持続できるようにすると共に、限られたスペースではあるが、自分のやりたいことに取り組み、満足感をもって遊びこめるように環境を整え、関りを持つようにした。

公開保育の研修に参加して得たことも活かしながら、子どもの様子、遊びへの興味、発達に合わせ、遊びや生活の充実を図った。

今年度はプール遊びも再開し、のびのびと夏の遊びを楽しみ、水の中に入る楽しさや気持ち良さを経験できた。

保護者が参加する行事も感染対策を行いながら実施できた。保育参加は年齢別に3日間に分けて行い、オープン保育は2日間設け、戸外での水遊びや給食の様子を見てもらうことができた。運動遊び保育参加は、1、2歳児は遊び慣れた公園で親子で体を動かして楽しみ、0歳児は保育室内と駐車場を工夫して使い、育ちに合った取り組みにできた。発表会は年齢別に時間を分けて行い、表現遊びなどの様子を見てもらうことができたが、各クラスが短時間になってしまったことや、取り組み方に課題は残った。

様々な取り組みを通し、異年齢との関わりや一人一人と丁寧に関わる保育を大事にし、子ども達がくつろいで過ごす中で成長する保育に努めた。

2022年度 村雨ほほえみ保育園（定員19名）園児数

	0歳児	1歳児	2歳児	合計（人）
4月	5	6	7	18
5月	5	6	7	18
6月	5	6	7	18
7月	5	6	7	18
8月	6	7	6	19
9月	6	7	6	19
10月	6	7	6	19
11月	6	7	6	19
12月	6	7	6	19
1月	6	7	6	19
2月	6	7	6	19
3月	6	7	6	19
平均	5.6	6.6	6.3	18.6

（3）一時保育事業について

年度前半はほぼ非定型保育での利用だったが、徐々にリフレッシュ保育、緊急保育での利用が増加していった。利用者は前年度の3倍以上になり、未就園児の保育施設利用の必要性が高まっていることや、一時保育の受け入れが地域の子育て支援のひとつにもなっていることを感じた。

2022年度 村雨ほほえみ保育園 一時保育利用状況

	非定型保育	緊急保育	リフレッシュ保育	合計(人)
4月	7	0	0	7
5月	4	0	0	4
6月	6	0	0	6
7月	8	0	1	9
8月	7	1	1	9
9月	7	1	2	10
10月	3	2	7	12
11月	3	3	8	14
12月	6	2	7	15
1月	5	2	4	11
2月	6	1	9	16
3月	6	0	12	18
合計	68	12	51	131

(4) 研修

キャリアアップ研修や、神戸市公私合同研修を積極的に受講し、研修で学んだことを職員間で共有できるように、研修発表の場を設け、スキルアップや保育の見直しに繋がるようにした。また、公開保育の研修にも参加し、他園の保育の様子を見ることで、新たな気付きや自分の保育の見直しができた。公開保育で学び、保育で活用したい内容は職員間で話し合い、園で取り組める方法にして取り入れ、保育の質の向上へと繋げていった。

3-8 松風児童館

(1) 児童健全育成事業内容・状況について

前年度までは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため関連機関との連携行事の中止が多くあったが、感染者状況や環境を整え十分な対策をした上で、3年ぶりに顔を合わせた運営委員会を実施することができた。小学校や民生委員と情報交換を行い、各機関での取り組みや連携できる事項をすり合わせ、地域全体で子どもたちの成長を見守ることができるよう児童の様子を話し合う機会を増やしてきた。

地域との連携においては、消防署見学や交通安全教室等、須磨消防署、須磨警察署とも連携し各施設に行き来し、親子や児童に児童館だけではできない様々な体験をする機会を設けた。また、近隣の大学から実習生を受け入れ、児童館活動を学んでもらいながら、普段の生活や行事を実施する中で、児童と深く関わり異年齢交流にもつながった。実習生のみならず、中学、高校へ通い始めた生徒たちが児童館に足を運んでくれ、行事のお手伝いをしてくれたり、職員に悩み相談や世間話をしたりし、中高生の息抜きの居場所となっている。

2022年度 松風児童館利用状況（2022年4月～2023年3月）

月	来館利用人員(人)								学童
	幼児	小学生				中高生	大人	合計	在籍人数
		1～3年		4～6年					
		一般	学童	一般	学童				
4	70	28	1,452	52	252	4	65	1,923	133
5	92	23	1,470	18	221	0	86	1,910	133
6	211	26	1,742	26	237	0	193	2,435	130
7	96	28	1,350	36	297	0	118	1,925	127
8	14	42	1,325	56	174	2	14	1,627	128
9	134	18	1,397	14	131	1	128	1,823	115
10	171	33	1,308	15	116	2	192	1,837	108
11	192	22	1,273	9	117	10	180	1,803	100
12	141	24	1,237	35	98	0	173	1,708	99
1	116	20	1,046	10	66	0	103	1,361	94
2	132	12	1,002	5	79	0	115	1,332	94
3	97	26	1,268	16	87	2	85	1,581	90
合計	1,466	302	15,870	326	1,875	21	1,452	21,265	

2022年度 児童健全育成事業報告

月	事業名	参加者数
4	チャレンジゲーム「つみきパズルに挑戦」	小学生 8名
	カレンダーづくり	小学生 11名
	プレゼント工作「フェルトでバラづくり」	小学生 13名
5	チャレンジゲーム「つみきパズルに挑戦」	小学生 13名
	おもちゃ工作「空飛ぶタネ」	小学生 14名
	カレンダーづくり	小学生 13名
6	チャレンジゲーム「つみきパズルに挑戦」	小学生 13名
	プレゼント工作「オリジナルポプリを作ろう」	小学生 19名
	新聞紙であそぼう	小学生 18名
7	七夕工作「七夕モビールを作ろう」	小学生 16名
	つくってあそぼう「紙飛行機であそぼう」	小学生 11名
	カレンダーづくり	小学生 17名
8	風船であそぼう	小学生 18名
	科学工作「油と水の不思議ボトルづくり」	小学生 18名
	チャレンジゲーム「けん玉に挑戦」	小学生 13名
9	オセロであそぼう	小学生 18名
	ミニ運動会	小学生 21名
	江戸時代のおもちゃ工作「ずぼんぼ」	小学生 16名
10	ハロウィン工作「仮面を作ろう」	小学生 23名
	チャレンジゲーム「お手玉に挑戦」	小学生 12名
	ハロウィンパーティー	小学生 19名
11	チャレンジゲーム「けん玉に挑戦」	小学生 11名
	自然物工作「星形リースを作ろう」	小学生 12名
	実習生と遊ぼう「新聞紙あそび」	小学生 28名

12	チャレンジゲーム「こままわしに挑戦」	小学生 12 名
	クリスマス工作「キラ星ツリーを作ろう」	小学生 19 名
	クリスマス会	小学生 80 名
	カレンダーづくり	小学生 10 名
1	チャレンジゲーム「こままわしに挑戦」	小学生 10 名
	お正月あそび「かるた&福笑いであそぼう」	小学生 9 名
	カレンダーづくり	小学生 8 名
	プレゼント工作「コースターを作ろう」	小学生 25 名(延べ人数)
2	バレンタイン工作「フェルトでラッピング袋づくり」	小学生 8 名
	チャレンジゲーム「的あてに挑戦」	小学生 14 名
	昔あそび「巨大すごろくであそぼう」	小学生 9 名
	カレンダーづくり	小学生 8 名
3	プレゼント工作「メモスタンドづくり」	小学生 15 名
	新聞紙あそび	小学生 11 名
	カレンダーづくり	小学生 10 名

親子イベント・講座

月	内 容	参加組数	連 携
6	親子講座「だっこでおはなし(絵本講座)」	9 組 20 名	須磨図書館
7	親子イベント「親子たいそう」	5 組 10 名	外部講師
9	親子講座「ベビーマッサージ」	3 組 8 名	外部講師
10	親子イベント「ハロウィンパーティー」	9 組 18 名	
11	親子イベント「ふうせんあそび」	12 組 26 名	
	親子イベント 「すとりべりーじゃむさんとあそぼう」	11 組 25 名	外部講師
12	親子イベント「クリスマス会」	13 組 27 名	
1	親子イベント「昔あそび」	7 組 14 名	
2	親子イベント「親子リトミック」	16 組 34 名	外部講師
3	親子講座「離乳食講座」	3 組 7 名	村雨こども園

(2) 親子館事業内容、状況報告

親子館事業では、利用者のニーズを再確認するために児童館の利用についてのアンケートを実施した。大型遊具、乗用玩具、子どもの発達や年齢に合わせた玩具を利用者にわかりやすく配置し、子どもたちが自分で遊びを見つけ自由に楽しんでもらえるように工夫した。また、親子がのびのびと遊ぶことができるように遊びごとのコーナーを作ったことで、同じ場所に居合わせた親子同士と一緒に遊び、関わり合っている様子が見られ仲間づくりに繋がっていた。

登録制クラス「すこやかクラブ」では、対象年齢が低くなったことでもう1年楽しみたいと継続される親子やその方たちからの紹介を受け登録して下さる親子も多く、登録組数が増加した。感染症にも油断できない現状から、蜜を避けるために2クラスに分けて実施し、参加者がより安心してプログラムを楽しめるよう配慮した。さらに、少人数制にすることで、職員と親子や保護者同士、子ども同士がより深く関わって、子育て情報や悩みなどを共有、共感しあえるような支援を行ってきた。

2022年度 松風児童館 親子間事業報告

クラブ名	内 容		対象者	時間	料金等
なかよしひろば	自由遊び	大型遊具で自由遊び	0～就学前 乳幼児親子	毎週月～水 9:30～12:30	無料 自由参加
	せんせいとあそび	体操やふれあい遊び 絵本の読み聞かせ等		毎週月～水 11:00～11:20	
	おべんとうひろば	持参したお弁当を食べる		毎週水 11:30～12:30	
むらさめひろば	村雨こども園園庭で自由遊び			毎週月 9:30～12:30	
すこやかクラブ	体操、親子のふれあい遊びや季節の遊び		1歳半～ 4歳児親子	毎週木 9:45～10:45 11:00～12:00	年会費 ¥3,000 登録制

※感染拡大防止のためおべんとうひろばは中止とした

2022年度登録制クラス すこやかクラブ 登録組数

月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
登録組数	18	20	21	21	22	23	23	24	24	24	24

2022年度 なかよしひろば 参加組数

月	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
参加組数	27	38	67	27	30	49	63	39	26	39	17

(3) 松風放課後児童クラブ（学童保育）事業内容、状況報告

学習支援の一環として学習を習慣づけるために、宿題や各自がやりたい課題、施設が準備したプリントなどをする学習タイムを設けた。普段は各学年30分程度、学校休業日には1時間半程度時間を設け、あそびスペースと学習をするスペースを分けることで、子どもたちが自主的に集中して学習に取り組むことができるよう環境を整えた。

各学校との連携においては、集団生活が苦手な児童や特に配慮の必要な児童とその保護者が増えたこともあり、電話連絡だけでなく直接担任の先生と情報交換する機会を増やしてきた。学校での様子や友だち同士の関わり、その日に起こった出来事などを聞いたり、学童での様子を伝えたりし、その児童の背景をともに考えながら連携、対応し、成長を見守っている。

本館 2022年度学校別・学年別在籍児数

小学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計(人)
西須磨	26	21	11	7	5	0	70
若 宮	5	9	0	1	2	0	17
合計(人)	31	30	11	8	7	0	77

(2022年4月1日)

小学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計(人)
西須磨	23	21	5	23	21	0	55
若 宮	5	9	0	0	2	2	16

合計（人）	28	30	5	23	23	0	71
-------	----	----	---	----	----	---	----

(2022年10月1日)

小学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計（人）
西須磨	21	16	4	1	0	0	42
若 宮	4	7	0	0	2	0	13
合計（人）	25	23	4	1	2	0	55

(2023年3月1日)

分館 2022年度学校別・学年別在籍児数

小学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計（人）
西須磨	8	12	1	4	0	0	25
北須磨	8	3	4	5	0	0	20
マリスト国際	0	0	1	0	0	0	1
合計（人）	16	15	6	9	0	0	46

(2022年4月1日)

小学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計（人）
西須磨	9	8	1	3	0	0	21
北須磨	8	3	3	1	0	0	15
マリスト国際	0	0	1	0	0	0	1
合計（人）	17	11	5	4	0	0	37

(2022年10月1日)

小学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計（人）
西須磨	9	7	1	3	0	0	20
北須磨	8	3	3	1	0	0	15
マリスト国際	0	0	0	0	0	0	0
合計（人）	17	10	4	4	0	0	35

(2023年3月1日)

2022年度 松風放課後児童クラブ 放課後児童健全育成事業報告

月	行 事	月	行 事
4	<ul style="list-style-type: none"> ・入所式・進級式 ・防犯防災保健指導 「児童館での安全な過ごし方」 ・4月のお誕生会 ・春の壁面づくり 	10	<ul style="list-style-type: none"> ・10月のお誕生会 ・学童入会説明会 ・防犯防災保健指導 「不審者について」 ・おたのしみおやつデー
5	<ul style="list-style-type: none"> ・まつりニック (チャレンジゲーム大会) ・5月のお誕生会 ・避難訓練 	11	<ul style="list-style-type: none"> ・学童申込開始 ・11月のお誕生会 ・冬の壁面づくり ・実習生とあそぼう
6	<ul style="list-style-type: none"> ・6月のお誕生会 ・防犯防災保健指導 「警報や注意報がでたとき」 ・運営委員会 ・夏の壁面づくり 	12	<ul style="list-style-type: none"> ・12月のお誕生会 ・防犯防災保健指導 「感染症について」 ・おたのしみおやつデー ・個人面談

7	<ul style="list-style-type: none"> ・個別懇談会 ・7月のお誕生会 ・防犯防災保健指導「夏休みの過ごし方」 ・保護者会（資料配布） 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・1月のお誕生会 ・防犯防災保健指導「地震がおこったら」 ・本館分館合同保育
8	<ul style="list-style-type: none"> ・本館・分館合同保育 ・8月のお誕生会 ・おたのしみおやつデー ・実習生とあそぼう 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流会（コースターのプレゼントを配布） ・2月のお誕生会
9	<ul style="list-style-type: none"> ・9月のお誕生会 ・まつりニック（チャレンジゲーム大会） ・秋の壁面づくり 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・3月のお誕生会 ・新年度準備 ・春の壁面づくり ・避難訓練 ・本館分館交流日

3-9 おやこふらっとひろば須磨（神戸市からの運営委託事業）

新型コロナウイルス感染症と向き合い、利用方法を考え、利用者に協力していただきながら運営を行ってきた。夏休み期間中は利用人数が増えることから、より多くの親子にふらっとひろばを利用していただけるよう、土曜日や第3日曜日同様、定員に達した場合は1組1時間半の制限時間を設けた。また、感染者数が増加している時期は3歳児以上の幼児は無理のない範囲でマスク着用をお願いし、感染拡大予防に努めた。

はじめての子育てをする保護者に対しては、子育てについての悩みが多く、気軽に悩みを打ち明けられるお友だちが少ない方も多いので、須磨区役所保健福祉課と連携し、講座や親子あそび、保護者同士で話をする機会を設けたすすく赤ちゃんセミナーを実施した。ひろば内で実施したことで、参加された親子は気軽に来所するようになり、居合わせた親子や職員と会話する姿もよく見られた。すすく赤ちゃんセミナー以外にも、せんせいとあそぼうや普段の親子との関わりの中で、親子に寄り添いながらひろばが地域の親子の居場所となることを目指し、支援していくよう努めている。

2022年度 おやこふらっとひろば須磨利用状況（2022年4月～2023年3月）

月	来所人数						来所組数			
	0歳	1歳	2歳	3歳以上	大人	合計	区内	区外	市外	合計
4	233	310	155	150	817	1,665	560	152	7	719
5	219	378	172	178	923	1,870	646	174	7	827
6	835	467	196	254	1,280	2,582	917	216	3	1,136
7	326	440	219	272	1,218	2,475	849	204	14	1,067
8	285	499	249	370	1,363	2,766	869	267	8	1,144
9	379	457	250	258	1,334	2,678	860	263	4	1,127
10	341	492	235	257	1,323	2,648	896	266	10	1,172
11	297	451	230	243	1,193	2,414	828	243	6	1,077
12	255	431	207	244	1,046	2,183	768	203	10	981

1	243	459	260	251	1,145	2,358	814	172	8	994
2	249	558	243	268	1,280	2,598	880	237	13	1,130
3	277	597	260	354	1,391	2,879	1,001	264	8	1,273
合計	3,489	5,539	2,676	3,099	14,313	29,116	9,888	2,661	98	12,647

1. 各機関との連携

須磨区役所保健福祉課と連携しながらイベントや講座の実施や、子育てに悩みを抱える保護者の相談、支援を行ってきた。2ヶ月に1回、2回コースで7ヶ月までの親子を対象に、すくすく赤ちゃんセミナーを実施し、栄養士、歯科衛生士、保健師、図書館司書による講座や仲間づくりができるような親子あそび、保護者同士で話をする機会を設け、親同士の交流の場を作り、子育てへの不安や悩みの軽減を目的に支援を行った。

また、前年度から継続して実施している保育サービスコーディネーター相談会では幼稚園、保育園選びに悩まれる保護者が多く、前年度を超える参加組数となっていた。相談会以外でも悩まれている方に対してはコーディネーターに来ていただき、相談にのっていただくなど、連携しながら支援を行ってきた。

実施月日	行事名	行事内容	参加組数
4月12日(火) 26日(火)	すくすく赤ちゃんセミナー	離乳食、歯科、事故防止、ブックスタートなどのミニ講座やふれあいあそび等を通して育児への不安緩和や仲間づくりに繋げる	5組
6月14日(火) 28日(火)			8組
8月9日(火) 23日(火)			8組
8月10日(水)	保育サービスコーディネーター相談会	幼稚園や保育園の選び方や申し込みについての情報提供、相談会	12組
10月4日(火) 17日(月)	すくすく赤ちゃんセミナー	離乳食、歯科、事故防止、ブックスタートなどのミニ講座やふれあいあそび等を通して育児への不安緩和や仲間づくりに繋げる	8組
12月13日(火) 27日(火)			5組
2月7日(火) 21日(火)			6組

2. イベント・講座の実施

季節を感じるあそびや、子育てに関する講座等を月に1回実施した。親子のふれあいだけでなく、親同士でお話ができるような内容を取り入れることで、参加された親子同士が顔見知りになり、ひろばであそばれるときにお話される姿が見られるようになっており、仲間づくりにも繋がっている。

はじめての実施となった交通安全教室では、須磨警察署の方に親子での自転車の乗り方や交通ルールを教えていただいた。親子で乗る自転車の選び方や子どもを守る自転車の乗り方の話に興味を持つ保護者も多く、事故を防ぐためにできることを再度見直すいい機会となっていた。

2022年度 イベント実施報告

実施月日	行事名	行事内容	参加者	
			大人	子
4月25日	布あそび	様々な種類の布を使って親子であそぶ	10人	10人
5月24日	風船あそび	風船を使った工作や親子あそび	14人	13人
6月29日	感触あそび	寒天やスライムなどを作り様々な感触を楽しむ	16人	17人
7月6日	七夕あそび	笹飾りづくりや親子で楽しめるあそびを実施	14人	14人
8月27日	なつまつり	いろいろなあそびコーナーをつくりおまつりごっこを実施	19人	26人
9月17日	パパイベント 運動会ごっこ	親子でふれあいながらたくさん体を動かす	14人	25人
10月25日	ハロウィン パーティー	ハロウィンのおはなし 親子で楽しめるあそび	14人	14人
11月29日	楽器であそぼう	様々な楽器に触れみんなで合奏 楽器作り	15人	14人
12月17日	クリスマス会	クリスマスのおはなし 親子で楽しめるあそび	19人	20人
1月20日	昔あそび	わらべうたや伝承あそびを親子で楽しむ	10人	11人
2月1日	節分あそび	豆まきごっこや簡単工作	14人	14人
3月11日	パパイベント 忍者ごっこ	親子でふれあいながらたくさん体を動かしてあそぶ	12人	17人

2022年度 講座実施報告

実施月日	講座名	講座内容	参加者	
			大人	子
4月19日	親子エアロビクス	親子でふれあいながら、心身のリフレッシュをはかる	13人	13人
5月18日	リトミック	楽器の音色や音楽を聴きながら親子でふれあい、こどもの表現力を育む	13人	12人
6月17日	子育て講座	親子でのコミュニケーションの取り方について	15人	15人
6月30日	交通安全教室	自転車の乗り方や交通安全について	10人	11人
7月15日	ベビーマッサージ	赤ちゃんとのコミュニケーションをとりながらマッサージを実施	7人	7人
8月5日	交通安全教室	自転車の乗り方や交通安全について	8人	6人
8月30日	歯の健康教室	乳幼児期の虫歯予防についての講座、歯磨き指導	9人	9人
9月28日	離乳食講座	離乳食の作り方や食べさせ方について	6人	7人
10月21日	絵本講座	絵本の選び方やおすすめの絵本などの紹介	10人	10人
11月17日	食育講座	基本的な栄養の話と健康的な食事について	4人	4人
12月20日	リトミック	楽器の音色や音楽を聴きながら親子でふれあい、こどもの表現力を育む	11人	11人
1月25日	防災講座	地震などの災害が起こった時の対応の仕方について	大雪警報発令のため中止	
2月16日	親子エアロビクス	親子でふれあいながら、心身のリフレッシュをはかる	10人	10人
2月28日	離乳食講座	離乳食の作り方や食べさせ方について	3人	3人
3月17日	ベビーマッサージ	赤ちゃんとのコミュニケーションをとりながらマッサージを実施	4人	4人

その他

	身体測定	せんせいとあそぼう
実施回数	年 25 回	年 50 回

3. 子育て相談

前年度から個別で行っている身体測定時に、発達・発育について相談される保護者が多くいたが、それに加え普段から来所される親子に声をかけ、深く関わることで継続して相談を受けたり、職員と顔見知りになった保護者がふらっとお話をしにきてくれたりすることが増えてきた。また、幼稚園や保育園などの選び方について悩まれる方も多く、保育サービスコーディネーターに繋ぐなど、区役所や関連機関と情報共有しながら子育てに悩みを持つ保護者への支援に努めている。

相談件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
相談	6	12	5	10	7	5	3	7	3	3	6	9	76
関連機関へ連絡	0	2	2	0	0	1	0	0	0	0	0	2	7

4. ボランティア・実習生等の受け入れ

ボランティアの受け入れでは、地域の方に週2回イベント等のお手伝いや、ひろばに来られた親子と関わり保護者とお話をしていただき、保護者が持つ育児への悩みや不安の緩和につながるよう活動していただいた。

また、須磨区役所1年目の職員が区役所内の様々な業務を体験する職場実習や、区役所に職場体験をしに来られた大学生もふらっとひろばで受け入れ、子育て支援の様子を伝えるとともに、イベントの準備等を体験していただき、ふらっとひろばでの活動を知っていただくいい機会となった。

月	内 容	人 数
4月～2月	ボランティア	1名
6月	須磨区役所内職場実習	6名
8月	職場体験	3名

3-10 諏訪ひかり保育園

(1) 保育・運営

諏訪ひかり保育園は10年目を迎え、コロナ禍でできる限り当保育園ならではの地域に密着した保育の実践に取り組み、地域の農作物の収穫、地域の方からの味噌づくりなど本格的な体験を重点的に保育の質の一層の向上と教育の充実に努めた。

保育の3本柱「食育・運動・異年齢保育」に加え、外部講師によるリトミックも3年目を迎え、音楽による刺激を受けることにより、こども達一人ひとりの集中力と共に自発的な行動・表現への育ちにも安定が見られた。

2022年度園児は91名でスタートした。

さいたま保育園との連携園として2年目となり、9名の園児が3歳児クラスへと入園してきた。その他にも小規模保育園から2名の園児が入園してきてそれぞれの習慣の違いがみられるため、こども達も保護者も園生活に慣れるようクラス運営を丁寧に行った。

コロナ生活も3年目に入り、和光市からの自粛保育要請もなくなりほとんどの方は陽性者が出ようと濃厚接触者にならない限り登園していた。

職員間では職員会議をはじめとする各種会議や乳児幼児リーダーによる定例打ち合わせなどを定期的で開催するほか、タイムリーな情報周知の徹底を図ることでこどもや保護者の情報、危機管理情報の共有への意識を高めた。

特にケア会議や園内研修においては、人権に重点を置き、小人数グループでのディスカッションにより、一人ひとりの思いを話し、相手の思いに共鳴して保育への思いをひとつにできるよう取り組んだ。

「さいたま保育園」との施設間連携において職員間ではコロナウイルス感染症対策のもと、お互いにどちらの園に欠勤が出てもフォローが出来るよう変わらず協力体制をとった。

また諏訪職員による運動指導を1年間定期的にさいたま保育園で実施することにより、お互いの保育やこども達の様子を共有し連携施設としての内容強化に努めた。

行事についても、感染症対策のもと少人数制にし、こども達の動きについては例年に近い形で取り組めるようにした。運動会は2クラスずつ、発表会はひとクラスずつの入れ替え制で行った。

地域交流も各施設長判断で行う事にはなっているが、どの園も二の足を踏み交流へとはつながらなかった。

保育の充実、保育の質の向上、新たな事業展開を図るなど、いずれにしても重要ポイントは、職員の人材育成、職員のスキルアップ、保育を振り返り新しいチャレンジに意欲を持つ等「人」の問題である。園の中心となる人材を育てていきたい。

2022年度 諏訪ひかり保育園園児数

月	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計(人)
4月	6	12	12	20	23	18	91
5月	6	12	12	20	23	18	91
6月	6	12	12	20	22	18	90
7月	6	12	12	19	22	18	89
8月	6	12	12	19	22	17	88
9月	6	12	12	19	22	17	88
10月	6	12	12	19	22	18	89
11月	6	12	12	19	22	18	89
12月	6	12	12	19	22	18	89
1月	6	12	12	19	22	18	89
2月	6	12	12	19	22	18	89

3月	6	12	12	19	22	18	89
平均	6	12	12	19	22	18	89

(2) 病児・病後児保育室「やわら」

新型コロナウイルス感染症が小児へと感染が広がり、嘱託医との連携を図りながらも受け入れが厳しい状況が続いた。また在宅勤務が増える中、こどもが体調不良の際に家庭保育をする保護者が増え、感染予防の観点から利用も控えられることにより利用者数も伸びなかった。医療機関における検査が徐々に整い始めているため、感染状況を確認しながら病児保育を必要としている方に、安全により多くの受け入れができるよう努め、登録者は少しずつ増えてきている。

2022年度 病児・病後児保育室「やわら」利用人数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
人数	1	0	2	0	2	1
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	7	5	0	4	2	5
合計	29人					

(3) 一時預かり保育

一時預かり保育に関しても、新型コロナウイルス感染症の拡大により、集団生活を避けられたり、保護者の在宅勤務の増加につれ利用数につながらなかった。

10月頃から来年度の入園に向けての在園証明希望の保護者により、少しずつ利用者が増えていった。

2022年度 諏訪ひかり保育園 一時保育利用状況

	非定型保育	緊急保育	リフレッシュ保育	合計(人)
4月	0	0	0	0
5月	0	0	0	0
6月	0	0	0	0
7月	0	0	0	0
8月	0	0	0	0
9月	0	0	0	0
10月	0	0	7	7
11月	4	0	3	7
12月	3	0	1	4
1月	8	0	3	11
2月	14	1	4	19

3月	23	0	3	26
合計	52	1	21	74

(4) 職員研修

キャリアアップ研修を中心に、一人ひとりの専門性に向けた研修に取り組むように努めた。人材育成に関しては、園内研修を充実させるとともに、オンライン研修によるグループワークを取り入れ、より一人ひとりの職員が自分の考えを話し、ディスカッションを通して柔軟に知識を取り入れ、実務につながるよう取り組んだ。

また和光市主催の3人の講師によるゼミ研修にも参加し、同じテーマ、同じ講師のゼミに1年を通して参加することにより、より学びを深めることが出来た。

またリモートによる外部研修にも積極的に参加し、それぞれの課題を捉え研修に努めた。クラスごとのオンライン研修などにも取り組むことで、チームの理解度や思いを共有しやすく風通しの良い関係へとつながっている。

3-1-1 おおつかほうゆう保育園

(1) 保育・運営

4月に20名の園児でスタートしてから、毎月新入園児が入園。3月末には卒園児1名を送り出すことが出来た。

海外にルーツを持つ園児が非常に多く、日本語が通じない中での保育は戸惑いが大きく、また文化の違いに苦慮することも多かった。しかし、通訳機を活用したり写真やイラストを使用したりしながら丁寧な関わりを行うことで信頼関係を築いていった。新年度に向けて重要事項説明書を見直し、英語版と中国語版を作成したことで、理解を得ていると感じる場面も増えてきている。

年度途中に施設長・主任を始め職員の入れ替えがあったが、保護者からはご理解ご協力頂くことが出来、混乱することはなかった。

日本語が伝わらず個別対応が必要な場面が多いこと、建物の構造上から既定の人数より人手が必要な場面が多いこと、休日保育出勤により平日の当番時間帯体制が手薄になること等により、超過勤務が多くなっている。令和5年度は、体制や使用する部屋の検討をしながら、超過勤務を減らしていくことが課題である。

建物の不具合が多々見られ、年間通して頻繁に修繕を行った。引き続き、運営上必要な改善点については優先順位をつけながら対策を練っていくことで、安心して保育を行える環境を作っていく。

近隣の公園にある花壇で、夏は野菜を育てた。町内会主催の行事にも参加を行っていったが、土日開催ということもあり参加人数は少なかった。令和5年度は、共に企画を行い職員も参加をしながら、保護者にも参加を促していきたい。

また、年明けからは町内会長と防災について話し合う機会を月1回設けて災害時の連携を図ることとした。町内在住の外国籍保護者が困らない様、併せて

アプローチしていきたいと考えている。

それぞれの経験値で1年間試行錯誤しながら運営を行ってきたが、手探りで
行っている部分も非常に多い。職員の安心感にも繋がるよう、基本的なマニ
ュアルを早急に作成する必要性を強く感じている。

令和5年度は、職員が意見を出し合える場作りを意識しながら「やってみよ
う」という気持ちを大切に、子ども主体の保育を心掛けていけるような研修を
取り入れていきたい。

2022年度 おおつかほうゆう保育園園児数

月	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計(人)
4月	-	12	3	3	2	0	20
5月	-	13	3	4	2	0	22
6月	-	13	4	5	2	0	24
7月	-	14	4	5	2	0	25
8月	-	14	4	5	2	0	25
9月	-	14	4	5	2	0	25
10月	-	14	4	5	3	1	27
11月	-	14	4	5	4	1	28
12月	-	14	5	6	3	1	29
1月	-	14	6	6	3	1	30
2月	-	14	6	6	3	1	30
3月	-	13	6	6	3	1	29
平均	-	14	4	5	3	1	26

(2) 休日保育

5月から開始、1日5～7名程度の園児が利用した。平日の指定休が増える
ことから職員体制が厳しく、超過勤務で対応を行い出勤人数を減らしている。

10年以上振りの休日保育事業開設とのことで、豊島区自体が休日保育のル
ールを把握しておらず質問に対する回答に時間を要したり、保護者への説明に
苦慮することもある。引き続き、行政と連携を取りながら基盤作りを行って
いきたい。

2022年度 おおつかほうゆう保育園 休日保育利用状況

	定期	単発	冠婚葬祭	合計（人）
4月	-	-	-	-
5月	21	1	2	24
6月	9	1	0	10
7月	11	2	0	13
8月	14	0	0	14
9月	20	4	0	24
10月	18	2	0	20
11月	24	4	0	28
12月	14	1	0	15
1月	17	2	0	19
2月	21	1	0	22
3月	22	2	0	24
合計	191	20	2	213

(3)職員研修

キャリアアップ研修、コドモンによるオンライン研修、豊島区保育課による保育の質向上研修に参加を行った。

園内研修としては、前期はクラス・個人で午睡介助など安全面に関するテーマについて調べたり個々の意見を述べるような形で考える機会を与えていった。

後期は、子どもの人権を尊重する保育とはどのようなものか考える場を設ける、園内のマニュアルを共有する等の内容を行った。

令和5年度は引き続き、豊島区保育の質向上研修、キャリアアップ研修に参加していく。また、園内研修として「海外の文化を知り保育に生かす」「安全管理」「マニュアル研修」に力を入れていきたい。

3-12 もんなかほうゆう保育園

(1) 保育・運営

2022年4月1日、東京都江東区に定員45名で新規開園し、園児17名で新年度を迎えた。法人理念や保育理念、特徴ある保育をもとに保育計画を立案してきたが、全職員が今まで経験してきた保育と異なる部分が多く、「やらせたい」という保育者の思いが色濃く出てしまい、こども一人ひとりの気持ちを尊重し、寄り添った保育の実践は難しかったように思う。職員会議や園内研修で保育について話し合いを行うことで、少しずつ変化は見られたものの課題は多く残っている。

ビルインということもあり園庭がない環境であるため戸外遊びが不足するのではないかと保護者からも心配の声があがっていたが、こどもの育ちを考え、午前だけでなく、午後からも散歩の時間を設ける等して保育にあたったことで、保護者の心配を解消することができた。

保護者対応では送迎時や連絡帳等、個人面談を通して密にコミュニケーションを図り、信頼関係を築きながらこどもの成長を保護者と共有していった。2家庭ほど言語の違いから話が通じない場面もあったが、翻訳機を利用したり個別対応を行うことで意思疎通を図った。また、文化の違いについては、日本のやり方を伝えるだけでなく、保育者がしっかりと各家庭の文化を理解して対応していく必要があると実感した。

地域の在宅で子育てしている保護者へ遊び場等を提供する「マイ保育園ひろば」では、5名の利用があった。初年度ということもあり、「絵本コーナーでの読み聞かせ」のみの開催となったが、今後は保育体験を取り入れることにより自園の保育を伝え、入園にもつなげてきたい。

給食については、株式会社グローバルキッズに委託しながらも、職員同士連携を取りながら、日頃の喫食状況の共有、食育やクッキングなどを行うことができた。しかし、運営費の観点から、委託ではなく園直営に切り替える必要があるとも感じている。

2022年度 もんなかほうゆう保育園園児数

月	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計(人)
4月	-	5	7	4	1	0	17
5月	-	5	7	4	1	0	17
6月	-	5	7	4	1	0	17
7月	-	5	7	4	1	0	17
8月	-	5	7	4	1	0	17
9月	-	5	7	4	1	0	17
10月	-	5	6	4	1	0	16
11月	-	5	6	4	1	0	16
12月	-	5	7	4	1	0	17
1月	-	5	7	4	1	0	17
2月	-	5	7	4	1	0	17
3月	-	5	7	4	1	0	17
平均		5	6.8	4	1	0	16.8

(2) 一時預かり保育

実施なし。

(3) 職員研修

キャリアアップ研修、江東区主催の研修に参加した。江東区が主催するゼミでは、子育て支援と発達支援について年間を通して行った。年間を通して行うことにより、深い学びとなった。園内研修は、不適切保育をテーマに研修を主に行ったが、それが身につく保育に生かした保育者と、そうでない保育者とに分かれた。研修を受けるだけでなく、保育にどのように生かせるかが重要にな

ると痛感した。来年度はただ研修を行うだけでなく、どのように生かせるかの振り返りをしっかりと行いたい。

4 公益事業

4-1 放課後児童クラブキッズガーデン

2022年度は、毎日コース84名・個性育成コース5名・夏休み利用予定7名でのスタートとなった。コロナ対策を行いながら、実施可能な活動を工夫し、子ども達の健全な心身の発達に寄り添う事を重視した。夏休み前から、学級閉鎖が見られ、コロナ感染が見られたが、「今、出来ること」を考えながら、遊び環境を整備していった。このような問題は、今後もあり得る為、今まで以上に一人ひとりの変化を注視し、指導員と保護者が連携を図り、適切な関わりを持って取り組む必要があると考える。また、入園希望児童数の増加により、2023年度は毎日コース90名見込みとなる。その為、指導員の応用力が必須と考え、研究会等に積極的に参加し、スキルの向上に努めたい。

2022年度 キッズガーデン在籍、利用者数 (人)

	毎日コース	個性育成コース	一日預かり・一時利用
4月	84	6	7
5月	84	5	7
6月	82	6	9
7月	82	6	9
夏休み	82	6	9
9月	82	6	9
10月	79	5	10
11月	79	5	10
12月	77	5	10
冬休み	77	5	10
1月	77	5	9
2月	76	5	9
3月	76	5	9
平均	79	5	9

2022年度行事報告

4月	はじめまして会
5月	園内活動
6月	園内活動
7月	円山川プール
8月	円山川プール、夏祭り、グループ活動
9月	アイスづくり

10月	うんどう会、ハロウィンパーティー
11月	園内活動
12月	クリスマス会
1月	園内活動
2月	園庭雪遊び
3月	お別れ遠足（1～3年）お別れ宿泊行事（4～6年）

4-2 さいたま保育園

(1) 保育・運営

昨年度に引き続き、コロナ禍による埼玉病院との連携を図り感染対策を行い保護者の信頼を得て1年間保育を行ってきた。

新入園児は、幼児クラス4名、乳児クラス24名（地域枠）+13名（従業員枠）と多く入園した。各家庭に合わせ、一人一人にあった保育の提供を行った。

4月より園長、主任がかわり、11月より、園長がかわったが、連携をとり最善を尽くした。

職員同士の濃厚接触者があり0歳児が1月にクラス閉鎖になった。

誕生日会をはじめ、行事については、感染対策を配慮し各クラスで行ったが、感染緩和により、12月のクリスマス会には、2歳児以上の合同で開催した。コロナ禍でできていなかった、幼児のお別れバス遠足を3月に開催できた。

今保育書類を見直し改正した。改めて、月案・週案・日案・個別・0歳児の週日案の作成した。支援が必要な園児の個別月案・個別日誌を作成し来年度より取り組む。外部講師より学んだ「人権擁護」について、保育実践できるよう日々の保育の見直しをしつつ、園内研修をはじめ、外部研修に取り組み、各職員間で話し合い、どう保育をしていくのかを考え、職員の資質向上と保育の見直しを行っていき家庭的な温かい保育を目指していきたいと思う。

2022年度 さいたま保育園園児数

月	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計(人)
4月	0	23	23	12	10	2	70
5月	0	24	23	12	9	2	70
6月	0	24	23	11	9	2	69
7月	1	25	23	11	9	2	71
8月	2	25	23	11	9	2	72
9月	4	25	23	12	9	2	74
10月	6	25	23	12	9	2	77
11月	8	25	23	11	9	2	78
12月	8	26	23	9	9	2	77
1月	9	26	22	9	9	2	77
2月	9	26	22	9	9	2	77

3月	10	26	22	9	9	2	78
平均	4.75	25	22.75	9.08	9.08	2	74.1

(2) 食育

食育では、近隣の農家のご協力をいただき、6月に毎年恒例の幼児クラスで「じゃがいもほり」を行った。夏野菜栽培を2歳児クラス以上で取り組み採集し食した。また、マナーレストランを開催した。「絵本給食」「世界の料理」「郷土料理」の献立より様々なメニューの給食を取り入れた。

(3) 準夜・夜勤・日曜保育

月	準夜	夜勤	日曜保育	合計(人)
4月	2	10	3	15
5月	0	11	3	14
6月	1	14	8	23
7月	0	10	8	18
8月	0	12	13	25
9月	0	10	5	15
10月	0	11	14	25
11月	0	13	8	21
12月	1	13	14	28
1月	0	13	4	17
2月	0	7	6	13
3月	0	10	1	11
平均	0.3	11.6	7.25	225

準夜・夜勤休日利用園児が幼児中心として増えている。来年度も、安心して過ごせるように家庭的な雰囲気大切に保育していく。深夜の体調不良等に対応できる様に、職員間の連携を密に的確に行うようにする。

(4) 職員研修

外部研修による「人権擁護」をテーマに行った。全クラス保育実技と保育記録について、外部講師より指導を頂き、学年間で話し合いを行い、お互いの保育感や気づきについて話し合いができ、お互いの考えがわかり共有できた。

4-3 つくしんぼ保育所

(1) 保育・運営

今年度は「コロナと共に保育」をスローガンにより良い保育に心掛けてきました。世の中の動向と病院の指示を仰ぎながらできる限りコロナ前の保育に近づけるよう努力してきました。行事に関しても、2部制だったものを1部制にしたり、以前は中止していた退所式を再開するなど、直にこども達を見て頂くこ

とができました。こども達の行事に関しても再度検討をし、年長児はお仕事体験等

新しい試みにも挑戦し今後の行事の参考にしていきたいと思います。

職員体制は前年度ほど余裕は無く、また多少手のかかるこどもが数名おり、各クラスの主活動等に影響を及ぼすこともありました。職員間の連携の重要性を改めて感じ、今後の課題としたいと思います。

今年度の途中で3歳児は0名となりました。園児数の減少（得に幼児）は確実に現れ、来年度は4歳児が0名予定です。病院側も園児確保の取り組みを行い、地域枠の増員を計画致しましたが職員の確保との兼ね合いで見送りとなりました。引き続き従業員枠での園児確保を行っております。

また、職員研修として年間研修の予定を立て定期的に行ってききましたが、後半はグローバルキッズの「こどもの人権擁護を踏まえた保育」の研修を重点的に行いました。職員全員が基礎から一つ一つ学び合い、お互いの意見交換も活発に行い、とても為になる研修となっています。来年度も引き続き行い、知識を深め職員のスキルアップと共に保育に役立てていきたいと思います。

2022年度 つくしんぼ保育所園児数

月	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計(人)
4月	3	11	9	1	6	6	36
5月	3	11	9	1	6	6	36
6月	3	11	9	1	6	6	36
7月	4	11	9	0	6	6	36
8月	4	11	9	0	6	6	36
9月	4	11	9	0	6	6	36
10月	6	11	9	0	6	6	38
11月	7	11	9	0	6	6	39
12月	7	11	9	0	6	6	39
1月	7	11	8	0	6	6	38
2月	7	11	8	0	6	6	38
3月	7	11	8	0	6	6	38
平均	5	11	9	0	6	6	37

(2) 研修

- ・キャリアアップ研修 (乳児保育)
(保護者支援・子育て支援)
- ・主任のためのマネジメント研修
- ・こどもの食生活を支えるための実践を学ぶ
- ・指導計画の書き方
- ・熱性けいれんの対処方法
- ・不審者対応研修 等

5 法人としての主な報告と今後の課題

5-1 法人・園運営改善について

- ① 理事会を6回開催し、さまざまな課題に関して協議を行うと共に、円滑な経営、運営に努めている。
- ② 評議員会を3回開催し、さまざまな諮問に対して審議し、円滑な経営、運営に努めている。
- ③ 理事会、評議員会に関しての役割について明確化し、取り組んでいる。
- ④ 法人本部機能を強化すると共に、各エリア・拠点の役割を見直し、法人と施設の円滑な連携について、推進及び改善に努めている。東京事務所の活用、人材育成等も行った。
- ⑤ チャイルドハウスこども園の定員超過に対して、各地域の状況、調査・検討を加え、バンビーノハウスは保育園の整備を行ったが、定員超過状態は解消されず、行政等への働きかけを強化している。
- ⑥ コンプライアンス委員会と共に、ハラスメント委員会を設置し、法人内の取り組みの確認を行った。職員研修を行い、周知に努めた。
- ⑦ 幼保連携型認定こども園に対する取組み、保育指針の改定に伴い、保育課程を作成し、年、月の指導計画を継続して検討し、改善を加えている。
- ⑧ 総合福祉研究会などとの連携により、会計システムの円滑な処理、整備を行っている。
- ⑨ 社会保険労務士など専門家と協議し、各施設に合致した就業規則、給与規定など職員の処遇などを制定し、実行すると共に、人事考課など人事システムに関しての検討を行った。
- ⑩ キャリアパスに合致した体制作り、諸規定整備に向けた検討を行っており、2024年4月より本格実施に向けた取り組みを行った。2023年度神戸エリアで試行すると共に他のエリアでも、準備を本格化させている。
- ⑪ 職員資質向上のための研修や実践を行った。(オンライン活用に加え、対面研修にも積極的に取り組んだ。)
- ⑫ 苦情解決システムの強化を図り、「保護者対応及び職員ケアに関する指針」を定め、一層の円滑化と活用を行う。
- ⑬ 専門家の支援体制を活用すると共に、公認会計士による外部監査を行い、経営改善に努める。
- ⑭ 社会福祉法人について知見の深い公認会計士とコンサルティング契約を行い、会計・人事等、各種マニュアル、フローチャート等業務の見直しを行っている。
- ⑮ 第三者評価の受審を目指し、各種のマニュアルを整備、改善に努め、実践に努めている。
- ⑯ 子どもの育ちを客観的に把握するためのシステム、体制整備に努めている。
- ⑰ 社会福祉法人改革に伴う諸準備を進め、行政や社会福祉協議会、各種専門セミナーに積極的に参加すると共に、専門家の助言を受けながら、諸

手続きを行い、必要に応じて改善に努めている。

- ⑱ 不正アクセスへの対策を講じ、改善に努めると共に研修等を強化した。抜本的なシステム改正についても取り組みを行い、2024年度に向けた準備を行った。

5-2 日常業務関係

(1) 防災・危機管理体制の充実について

- ① 危機管理体制を強化すると共に、防災マニュアルの周知徹底、訓練等を通じて、改善に努めている。
- ② 様々なケース（内容、時間、場所）を想定しての避難訓練の充実を行う。
- ③ メールの一斉配信など、個人情報保護を鑑みつつ、緊急時の保護者との連絡体制の整備を行い、円滑な連携システムが整い、円滑な活用となっている。
- ④ 救急救命の講習を継続して実施すると共に、AEDの使用法など継続した研修を行い、命を守る職場環境整備になお一層努める。
- ⑤ 新型コロナウイルス感染予防対策について諸施策を整備した。

(2) 園務・経理の効率化

- ① ネットワークシステムを構築し、情報共有や情報保護に取り組みを継続しているが、現状課題も多くなっていることから、抜本的な見直しを行い、業務改善、システム構築に向けた取り組みを行っている。
- ② 経理事務に関しては、施設との連携の円滑化が推進されると共に、ミスの最小化に向けた取り組みを行い、ミス0を目指した体制を構築しているが、数件のミスがあり、更なる改善が必要である。
- ③ 保護者、職員等とのメール配信、連絡など活用方法をなお一層工夫し、相談業務等への充実、活用を図る。各施設で、保育支援システム・キッズリーやコドモンの導入によりタブレット端末を活用した取り組みを行っている。
- ④ 個人情報保護を念頭に、データ管理の整備を行い、ペーパーレス化を一層推進している。
- ⑤ 経理システム、給与計算、栄養計算など関係するソフトについて、システムの再構築に向けた取り組みを行っている。
- ⑥ 電子帳簿保存等についても検討を加え、導入検討を行いたい。
- ⑦ 月案・週案など日常業務について、コンピュータ処理化を図り、円滑な運用を行なっている。
- ⑧ ホームページをリニューアルすると共に、職員研修を行って、職員でも対応できるような体制整備を進めている。
- ⑨ SNSの積極的な活用などウェブ環境のなお一層の充実を図っている。

(3) 各種研修の実施

- ① 対面型の研修も増加してきている一方で、オンラインを活用した研修にも積極的に参加し、今後の展開を期したい。
- ② 情報共有に関する勉強、取組みを積極的に行った。
- ③ 法人として、採用研修について、改善を図り、継続した取り組みを行うように努めた。
- ④ 管理職、事務職を中心に、社会福祉法人実務検定試験対応研修を行うと共に受験した。
- ⑤ 健康管理、メンタルヘルスケアについて、研修を継続して行った。
- ⑥ 保育教育内容充実に関する研修について、積極的に参加した。
- ⑦ 保・幼・小連携など、地域の研修に積極的に参加した。
- ⑧ 運動遊びなどの体育の研修に積極的に参加した。
- ⑨ 他の保育園、幼稚園、児童館等の施設見学、教育内容、保育内容の研修に努めた。
- ⑩ 専門講師を招いて、保育実践についてのケーススタディを継続して実施し、質の向上に努めた。
- ⑪ 保育関係団体主催の研究大会、セミナー等へ積極的に参加し、フィードバックに努めた。
- ⑨ 保育制度改革に伴う、各種セミナー、勉強会に積極的に参加した。
- ⑩ 社会人としての常識、マナーなど社会性を身につける研修を積極的に取り入れた。
- ⑪ パソコン活用を推進し、IT研修を積極的に行い、レベルの均一化と共に高度化、専門化に向けた研修を行なっている（ホームページ、メール、インターネットの活用、業務効率化）。
- ⑫ 園児に関する基本データを活用し、保育の実践に役立てている（保育支援システムの導入と活用）。
- ⑬ 第三者評価を受審するための勉強会、フィードバック研修などに積極的に参加し、整備に努めている。
- ⑭ 社会福祉法人改革に伴う、各種の勉強会、研修に参加し、具体的対応を行った。
- ⑮ 観劇などを推進し感性を磨いた。
- ⑯ コンプライアンス研修を実施し、周知に努めた。
- ⑰ 各エリアにおいて、新採用職員研修について、取り組みを行い、改善に努めた。

(4) ホームページ・各種連絡について

- ① ホームページ等の定時更新を行うための体制整備を行っている。
- ② 園だより、給食だより、クラスだよりなど、定期的なお便りの充実を行い、配布を行っている。
- ③ 園行事等に関して、受付場所にPC・テレビを配置し、情報配信し、高い評価を受けている（諏訪ひかり保育園）。

- ④ メール通信を活用し、行事予定のお知らせ、欠席者の報告や伝言について、迅速かつ正確に行っている。
- ⑤ 個人情報保護や育児相談の観点から、なお一層メールを活用した連絡網を確立し、子育て支援に役立てている。
- ⑥ 法人と施設の連絡において、連携ミス等の課題について、改善に努めた。
- ⑦ メールアドレス・パスワードなどセキュリティの充実、システム開発に取り組んでいる。

(5) 受付業務

- ① メール・WEBの活用など、受付、連絡など業務改善に努めた。
- ② 電話対応について、個人名呼名が定着し、高い評価を受けている。
- ③ コミュニケーション能力を向上させ、臨機応変、即時の対応については、今後一層研修に努め、情報共有化などを推進している。

(6) 食育の推進（各施設共通の課題として）

- ① 地産地消など一汁三菜などメニューを主体に継続して改善に努めている。
- ② チャイルド農園での野菜の栽培などを活用した実践的な食育活動の展開を行い、一定の成果をあげている。村雨こども園でも同様に、屋上園庭において、菜園を設け、食育の一助になっている。
- ③ 栄養士を中心に保育士と連携し、年間食育計画を作成し、食育についての研究、研修活動を積極的に行った。
- ④ 園児の個別のアレルギーの聞き取りを行うなど、離乳食、アレルギー除去食、病児食など献立、食材など一層の工夫を加え、更なる充実を図っている。
- ⑤ 「お料理室たより」などを通じて、食育指導、栄養指導、健康面での啓発活動に取り組んでいる。
- ⑥ 食指導において、家庭との連携が課題となり、保護者指導などを行う必要がある。
- ⑦ 毎日、献立サンプルの展示を行っている。
- ⑧ 健康増進について啓発活動を行い、実践する。

6 新規事業

(1) 豊岡拠点

- ① チャイルドハウスこども園隣地において、駐車場としての活用と共に、カフェ等の改修を検討して、具体的な取り組みを行いたい。
- ② 新規事業検討

(2) 阪神拠点

- ① 各施設環境整備
- ② 新規事業検討

(3) 首都圏拠点

- ① 東京都開設園（おおつかほうゆう保育園、もんなかほうゆう保育園）について、地域に根ざした環境整備を行った。
- ② 学童保育など需給調査、検討を行い、具体的な取り組みを行う。
- ③ 首都圏新園への対応
- ④ 新規事業検討

(4) 法人

- ① 就労支援事業の調査検討
- ② 外国人対応についての調査、視察、具体化取り組み検討
- ③ 児童発達支援等取り組み検討
- ④ 人材育成、派遣事業等への取り組み検討

(5) 2023年度重点事業

- ① 児童福祉事業以外への新規事業への本格的な取り組み
- ② 首都圏における保育園、学童など開園に向けた調査及び具体的取組み
- ③ 放課後児童クラブ・複合型施設及び児童館への取組み（豊岡）
- ④ 就労支援・就労移行支援事業への取組み（豊岡・神戸）
- ⑤ 多地域多機能多施設への取組み
- ⑥ その他、アンテナを高くして対応

まとめにかえて

2022年度は、コロナ禍における生活様式が定着する一方で、afterコロナに向けた取り組みが本格してきた。

園児、保護者はもとより、職員の健康管理に配慮し、一人ひとりを大切にす姿勢を保ちながら、保育・教育事業の変化を如何にとらえて対応していくのか、具体的な方策を検討し、取り組んだ。

保育・教育事業も、サンタ（多施設、多機能、多地域）の実現に向けたネットワークの強化は大きな課題となっていると共に、地域に密着した活動展開がなお一層重要になってきている。

法人・エリア・施設の機能及び役割分担について、検討を加え、業務の円滑な推進に向けた検討を行い、2023年度より試行し、改善に努めたい。

積年の課題であったキャリアパス策定、実施についても、2024年度本格実施に向けた取り組みを行い、各エリアでの実態に踏まえた展開を行うこととしたい。

また、少子高齢時代に即した新規事業についても、具体的な調査検討を行い、視察や専門家との情報交換に努め、2023年度実施に向けた取り組みを行った。

法人と施設の基盤強化、PDCAサイクルの重視、そして何より一人ひとりを大切に、積極的な取り組みを推進することとしたい。

職員がやりがいと働き甲斐を持ち、地域に必要で、愛されるコミュニティを目指した取り組みを進めることとしたい。